

### 玉村町の農業用水について調査

## 農業用水の安定供給に向けさらなる努力を

### 総務経済

#### 常任委員会

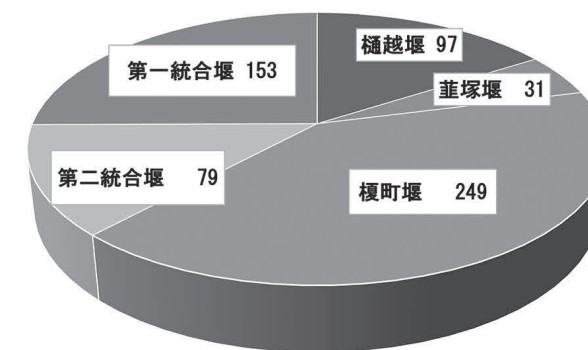
### Report

委員長 月田 均 委員 柳 沢 浩 一  
副委員長 新 井 賢 次 高 橋 茂 樹  
久 保 留 美 子  
備 前 島 久 仁 子

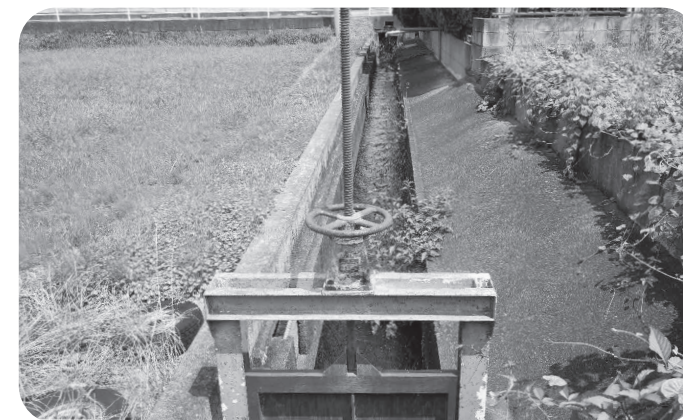
所管事務調査日：令和2年8月5日



今年度改修予定の葦塚堰



各堰からの受益面積（ヘクタール）



五料の取水堰

#### ● 農業用水の現状

玉村町の農業用水には5つの取水堰があるが、建設から40年以上経過し、老朽化が進行。また地域によっては水不足、送水時期の遅れなどの問題が発生している。

#### ● 各取水堰の概要

各堰の①改修計画、②取水場所、③流域地区、④受益面積は次のとおり。  
【樋越堰】①令和6年度以降（第二統合堰改修後） 予定 ②端気川左岸  
③上樋越、中樋越、上福島、原森 ④97ヘクタール

【葦塚堰】①令和2年度予定 ②藤川左岸 ③飯塚、藤川 ④31ヘクタール  
【榎町堰】①未定 ②滝川左岸 ③板井、齊田、上新田、与六分、福島、南玉、川井、下之宮、箱石、小泉、飯倉、五料 ④249ヘクタール  
【第二統合堰】①令和6年度予定 ②滝川左岸、右岸 ③下新田、宇貫、八幡原、上之手、上飯島 ④79ヘクタール  
【第一統合堰】①令和元年度改修済 ②滝川右岸 ③角洲、上飯島、後箇、上茂木、下茂木 ④153ヘクタール

#### まとめ

町内にある5つの取水堰は今後、改修を計画しているが、しっかりとした予算計画を立て、事業を確実に実施し農業用水の安定供給に努められたい。榎町堰から水を引く芝根地区は取水口から遠く離れ、途中で水路が枝分かれしているため、水不足や送水時の遅れ等の発生しやすい状況がある。現状を調査し、改善に取り組まれたい。  
また農業用水の安定供給には水路の改善だけでなく、使い方の改善も必要と考える。今後も町と水利組合とで連携しながら、限られた水資源を効率的に使うよう取り組むべきである。

### 玉村町のICT教育の推進について調査

## 学校教育の大きな転換点 新しい教育の形を

### 民生文教

#### 常任委員会

### Report

委員長 原 利 幸 委員 渡 辺 俊 彦  
副委員長 小 林 一 幸 石 内 國 雄  
浅 見 武 志  
宇 津 木 治 宣

所管事務調査日：令和2年8月6日



今年度中に1人1台整備されるタブレットPC



実際に問題を解いてみました



大型モニタとつないで情報を共有

#### ● ICT教育とは

ICT「インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー」とは情報通信技術のことである。ICT教育とは情報通信技術を活用することで、これまで以上に効果的に教育を行うことである。児童生徒一人一人にタブレットPCが用意される。①資料・教材の提示が柔軟にできる。②学び合いがスムーズにできる。③個別に最適な情報を提供できる。④休校中でも、自宅でリモート授業を受けられる等のメリットがある。

#### ● ICT環境の充実

玉村町では現在、先生用として1人1台タブレットPCが整備されており、今年度中には、生徒にも1人1台のタブレットPCが整備される予定である。学校内でのインターネット環境も整備が進み、今年度中には教室内はもろろん、廊下や図書室でも誰もが接続可能な状態となる。また、タブレットPCを自宅で使用する際に、インターネット回線が必要となるが、未整備の家庭にはいくつかの支援策が用意されている。

#### まとめ

先生には長年蓄積している授業・教育のノウハウがある。これは尊いもので教育の基本となっている。教育のICT化が進むことによって、教育の全てがICTに置き換わるものではないが、ICT化が進むことにより全く新しい教育の形ができてくる。まさに教育の大きな転換点となる。先生向けの研修については、今年度は小中学校7校で各校3回実施する。ICTにより得た情報を知識・教養として定着させるため、国語・漢字・読書等への取組も重要である。